

2023(令和5)年度
(一財)熊本国際観光コンベンション協会
事業計画書

2023(令和5)年3月作成
(一財)熊本国際観光コンベンション協会

2023(令和5年)度の事業方針について

【熊本市(観光関連)の現状】

①観光客の入込数

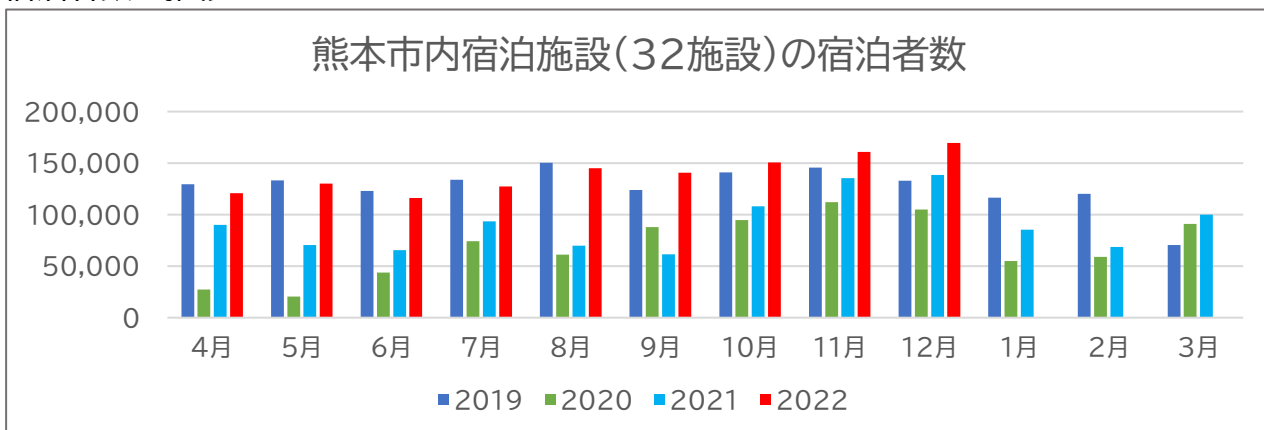
	2017 (H29)	2018 (H30)	2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)	コロナ前比
入込数(人)	5,018,000	4,954,000	6,014,000	2,453,000	2,311,000	2022/2019
対前年比	109.1%	98.7%	121.4%	40.8%	94.2%	38.4%
宿泊者数(人)	2,759,685	2,813,335	2,819,249	1,680,914	1,837,479	2022/2019
対前年比	109.0%	101.9%	100.2%	59.6%	109.3%	66.5%

②観光施設利用者の推移

	2018 H30	2019 R1	2020 R2	2021 R3	2022 R4	対前年比 2022/2021	コロナ前比 2022/2019
熊本城	1,704,769	2,107,024	891,844	360,855	844,910	234.1%	40.0%
城彩苑	1,057,151	1,233,724	618,433	534,862	1,116,503	208.7%	90.4%
水前寺成趣園	439,466	425,497	172,302	135,517	219,078	161.6%	51.4%
動植物園	360,709	785,006	367,297	411,372	684,931	166.4%	87.2%

- ◇ コロナによる閉園等がなく、各施設とも前年比利用者数は増加
- ◇ 動植物園は3月～5月に開催された緑化フェア期間中大幅な伸び
- ◇ 10月以降インバウンドが戻ってきているが、熊本城と水前寺成趣園はコロナ禍前の約半数程度

③宿泊者数の推移



- ◇ コロナ禍前(2019年)の水準にほぼ戻りつつあるが、まだ調理、清掃、ホールスタッフ従事者が不足
- ◇ 2022年10月以降インバウンドが急激に増加(熊本は台湾・香港・韓国・タイなど東アジアからの入込)

【今後の動き】

2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)
	<ul style="list-style-type: none"> ●3/23 熊本空港新ターミナル完成 (韓国定期便・台湾チャーター便の再開) ●7/15 南阿蘇鉄道再開 ●2/9 漱石内坪井旧居再開 ●9/1 ズエンス® 邸再開 ●2/15 四時軒再開 ●8/2-11 世界マスターズ水泳 ●11/14-19 SUPER500(バドミントン) 	<ul style="list-style-type: none"> ●12/ TSMC操業開始
<ul style="list-style-type: none"> ◇馬具櫓～復旧2032年頃 ◇戌亥櫓および続塀～復旧2032年頃 ◇宇土櫓～復旧2032年頃 	<p>2022年より城内各エリアで復旧工事エリアが拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇旧細川刑部邸～復旧2028年頃 	

【コンベンション協会の目的】

交流人口の増



・地域産業経済の活性化
・文化の向上

【令和5年度(2023年度)の取り組み】

ニーズに沿った事業を推進し、 文化の継承と地域全体の経済活性を図る

◎既存の観光・文化財素材の磨き上げ

- ⇒ユニークベニューとエクスカーション開発の加速化
- ⇒地域と連携した観光素材の磨き上げ(水前寺・植木温泉地区など)

◎地域や人との連携強化

- ⇒各地域活動への積極的な協力や支援
- ⇒「こころのバリアフリー」の推進

◎旅行業の本格稼働

- ⇒専門知識やノウハウを持つ旅行業専門職員の育成
- ⇒インバウンド需要を見据えた商品開発と販売の推進

コンベンション協会の柔軟性・迅速性を最大限に活かす

ポストコロナ禍に対応した

MICE

① 誘致、支援策の推進

- ⇒経済効果の現状を踏まえた助成制度の再整備
- ⇒案件保持者などターゲットを絞った効率的な誘致

② ユニークベニュー事業の加速化

- ⇒新規ベニューとエクスカーションの開発とパッケージ化
- ⇒専門職員の受入、活用

観光

① 地域・文化の活性化

- ⇒植木温泉地区や水前寺地区など地域に密着した活動推進
- ⇒既存の無形・有形文化の発信と継承
- ⇒「こころのバリアフリー」事業の推進

② 旅行業の推進

- ⇒着地型旅行商品の開発
- ⇒インバウンド向け体験型旅行商品の造成

運営

① 協会運営基盤の充実

- ⇒収益事業の多角化
- ⇒効率的な財産運用の研究と実施

② 業務の抜本的な見直し

- ⇒ニーズに沿って先を見据えた組織再編と規則等の見直し
- ⇒リモートワーク対応を含めたデータクラウド・デジタル化の推進

I MICE誘致・支援

(1) コンベンションの開催誘致

⇒ 主催者等のニーズを把握しターゲットを絞った開催誘致の実施

- ・コロナ禍での開催手法の変化に伴い、今後の開催計画や方向性を調査
- ・JCCBデータベースを基に中規模(2,000人前後)開催を対象とした学会本部への誘致活動強化
- ・主会場となり得る施設、宿泊施設関係者との連携を高め、具体的な受入環境の情報提供
- ・MICE見本市「IME2024」の商談参加

(2) 開催情報の収集、ネットワークの継続

⇒ MICE主催者や案件保持者を招へいし施設や都市環境、観光施設の現地視察

- ・主なターゲット
(一社)日本精神科看護協会、(一社)日本高血圧学会、(公社)日本口腔外科学会

⇒ 全国のコンベンション推進団体との情報連絡会議に参加し開催等の情報共有

- ・日本コンGRESS・コンベンション・ビューロー(JCCB)部会、総会への参加
- ・九州地区コンベンション推進団体連絡会(九推連)への参加(11月に熊本市で開催)

(3) 開催支援助成金の継続実施と制度の見直し

⇒ コロナ禍後の開催状況や経済効果等の現状把握と検証、助成制度の再整備 ◆見直し

- ・特別助成金対象 4月 ICEP2023、8月 応用物理学会

(4) 物的支援の継続実施

⇒ 開催促進及びおもてなしの向上を図るため、大会歓迎看板の掲出などを継続実施

- ・ペーパーバッグ(有料 @100円)や観光ガイドマップ(無料配布)等の提供
- ・歓迎看板(主会場・空港・熊本駅)の掲出、歓迎のぼり・法被・横断幕の貸出し
- ・中心商店街などで歓迎のおもてなし演出(歓迎エアポールを設置)

(5) ユニークベニューの利用促進

⇒ 昨年度から本格的に動き出したユニークベニュー開発を加速化し、有力な誘致ツールの構築

- ・MICE主催者のニーズに沿ったユニークベニューの開発・パッケージ化
- ・MICE主催者及び企業案件のニーズに沿ったエクスカージョンツアーの開発 ◎拡大
- ・上記二点のコーディネーター業務(受入業務)、販路拡大及び販促、実証実験(体験会)の実施
- ・旅行業の稼働及び危機管理体制、契約条項の整備

(6) コンベンション統計業務

⇒ コンベンションの開催がもたらした経済波及効果の調査・分析

⇒ 結果を公開し、関係団体等との共通認識を図り、地域全体のおもてなし機運を醸成

II 観光客の受入・誘致

(1) 国内誘致

⇒ 着地型商品の造成と着実な販路形成

- ・旅行業取得に伴う着地型素材をメインとした商品の造成＝「稼ぐ事業」の創生
- ・オンラインセールスを活用し、旅行会社(造成・仕入・営業部門)への直接売り込みを強化
- ・「熊本版MaaS」構築への協力

(2) 旅行商品販売事業の強化と着地型旅行商品の販売

- ⇒ 植木温泉地区の宿泊プラン造成 **★新規**
⇒ JR九州「ななつ星in九州」提供の細川流盆石体験プログラムの継続

(3) 教育旅行の誘致・受入

⇒ 現在のニーズに沿った助成制度の見直しと、誘致活動の強化

- ・既存インセンティブ(バス助成)を廃止、教育プログラム(防災・減災)利用に関する助成制度を新設
- ・教育新規プログラムの造成 **★新規**
- ・行政や県観連との連携による誘致強化

(4) インバウンド受入体制の強化

⇒ 急速なインバウンド回復やTSMC進出に対応した情報発信、受入体制の整備

- ・「グルメブック」繁体字版の作成 **★新規**
- ・既存の台湾向け熊本の情報発信サイトとの連携強化
- ・台湾向けに特化した着地型コンテンツの造成 **★新規**

(5) 観光ボランティアガイドの資質向上と連携強化

- ⇒ 城彩苑内常駐ガイドの派遣依頼継続
⇒ 好調な防災・減災プログラムへの継続協力
⇒ 「UDくまもと」や「春日人おてもやん」との連携
⇒ 「こころのバリアフリー」への取組み強化 **★新規**

(6) 地域に密着した活動の支援・協力

- ⇒ 植木温泉地区・水前寺地区での地域活動に対する協賛やマンパワーの協力
⇒ 水前寺地区や中心市街地で開催される様々なイベントへの実践的な協力 **◎拡大**
⇒ 水前寺肥後細川文化発信拠点「湧水亭」の運営と事業強化
⇒ 水前寺地区ガイドの運用と体験プログラムの増設 **★新規**
⇒ ジェーンズ邸開館に伴う成趣園との回遊連携事業創設 **★新規**

III 受託管理運営

(1) 観光案内所の運営

- ⇒ 「こころのバリアフリー認証」を取得 **★新規**
⇒ 城彩苑、JR熊本駅構内の案内業務を受託
⇒ ニーズ調査に基づく各種サービス提供(二次交通チケット販売や記念品販売など)

(2) 熊本博物館受付・販売の運営

⇒ 熊本博物館の受付業務及び販売業務を受託

IV 情報収集・広報・宣伝活動

(1) 観光パンフレット等の制作及び配布

- ⇒ 各種パンフレットのデジタル化推進
- ・くまもと総合ガイドブック「くま本」の更新と電子化への検討
- ・くまもとグルメBOOK(日本語版+英語版)の更新
- ・ガイドマップ(8カ国語版)の更新

(2) 各種広報活動の更新・継続

- ⇒ 様々な情報発信を継続
- ・協会広報誌の発行やメルマガの発信、「くまもと春の植木市」宣伝活動の継続実施
- ・ホームページやSNSの随時更新(多言語対応含む)
- ・区役所モニターを活用した情報発信 **★新規**

(3) 観光客実態調査の実施

- ⇒ 観光案内所や二の丸お休み処、水前寺地区などでの観光客動態の調査継続
- ・WEBアンケート回答促進のため電子ノベルティの導入検討 **★新規**

(4) 観光情報の収集・ネットワークの構築

- ⇒ 観光関連各種団体との情報交換を積極的に実施し、現状や要望等を把握
- ・日本観光振興協会九州支部への継続参加
- ・大都市観光協会連絡協議会への継続参加

V 協会運営基盤の充実

(1) 基本財産・運用財産の効率的な資金運用・管理

- ⇒ 高い運用益を得られる運用方法の研究・実施
- ⇒ 運用財産の効率的かつ弾力的な運用を実施

(2) 協会運営の見直し

- ⇒ 賛助会員のニーズや課題を踏まえた運営を行い、会員の入会メリットを向上
- ⇒ ニーズに沿った組織や配置、協会規則・運用等の見直し
- ⇒ 決裁事務や帳票のデジタル化に向けた検討とクラウド化の推進
- ⇒ DXなど各種外部研修への参加や人材育成の推進 **◎拡大**
- ⇒ コロナ禍における会員向け各種支援制度等の情報の収集、発信(協会HPに特設ページを設置)

(3) 収益事業の多角化、拡大

- ⇒ マスターズ世界水泳開催に伴うウェルカムゾーン運営受託 **★新規**
- ⇒ ジェーンズ邸開館に伴うグッズの制作、販売 **★新規**
- ⇒ 熊本博物館ミュージアムショップや湧水亭の収益増に向けた取り組み
- ⇒ オンラインショップの充実と販売強化
- ⇒ 観光客実態調査やイベント関連運營業務などの継続受託
- ⇒ オリジナル商品の開発